

平成21年度コミュニティ・スクール推進協議会 実践発表資料

(ふりがな)	(いわいずみちょうりつ かど しょうがっこう)								
学 校 名	岩泉町立門小学校								
(ふりがな)	(しもへいぐん いわいずみちょう かど あざ まち)								
所 在 地	岩手県下閉伊郡岩泉町門字町32-3								
電話番号	0194 (25) 4125			FAX 番号		0194 (25) 5098			
学級数		1年	2年	3年	4年	5年	6年	特支	計
		1	1	1	1	1	1	0	6
児童・生徒数		11	14	14	12	11	14		76
(特支)		0	0	0	0	0	0		0
教職員数	11人	学校運営協議会を置く学校として指定された年月日				平成21年4月1日			
学校運営協議会の委員数・構成	10人	内 訳	地域代表 6人、保護者代表 3人、教職員 1人、 大学教授等有識者 0人						
	学校運営協議会代表者(会長等): 地域代表								
その他	平成20年12月1日 学校支援地域本部事業開始								

(平成21年4月1日時点)

I 学校運営協議会設置までの経緯、設置後の改善状況

1. 「学校運営協議会を置く学校(コミュニティ・スクール)」指定前の状況

- 保護者も地域住民も、みんなが子ども達の健全育成を願い温かく見守っている地域である。少子高齢化の進む本地域では、子ども達や学校に寄せる関心は高かった。
- 保護者は仕事が忙しく、学校に対して積極的に協力したいという思いはあってもなかなか学校へ足を運ばない現状があり、主体的なPTA活動とまではいかないが、必要な時には、積極的に協力してくれていた。
- 昭和30年代には、全校生徒が600人を超える時代があり活気に溢れていた本地域であるが、現在は、少子化・高齢化が進み地域全体の活性化が望まれていた。また、地域にはさまざまなキャリアをもつ高齢の方々が多く、さらに、学校教育に対しても関心をもっており、機会があれば協力したいと考えている人は多かった。
- 保護者も地域住民も児童とのふれあいを望む人は多く、環境整備等へのボランティアやスクールガードとしての参加が多かった。しかし、学校＝「教える」という捉えもあり、「教える」には抵抗が大きく、学習活動へのボランティアには参加は少なかった。
- 学校への何らかの関わりをしたいと考えている方がいる一方で、現実にかかわっている人は限られている傾向があった。
- 本県では独自の「教育振興運動」を展開し、「学校・家庭・地域が地域の教育課題を共有し、それぞれの責任と役割を明らかにして取り組もう」という活動を進めてきているが、本地域では、PTA活動の延長線上にあり、その趣旨にそって十分に機能するまでには至っていなかった。

○ 学校は、小規模校であり、保護者や地域の協力は必要不可欠なものであり、保護者や地域の学校教育への参画意識を高めようと様々な活動を推進してきていた。

しかし、教職員は地元出身の者が少なく、勤務年数は比較的短い。管理職にあっては3年、一般教職員にあっては4・5年という期間での入れ替わりがあり、学校と地域が子育ての思いを共有し、協働した取り組みを継続していくためには何らかの工夫が必要であった。

2. 学校運営協議会の設置を決めた理由

○ 保護者や地域住民の教育に対する思いが反映され、地域が必要とする子どもを育てるための環境を作るためには、より多くの保護者や地域住民が学校経営に参画する体制を整えることが必要である。短期間で学校のスタッフが変わっても、協働した取り組みが継続でき、学校教育への必要な応援が得やすい体制が築かれることは、教育効果を期待できるのではないかと考えた。

○ 学校を核として、地域の人材を多く活用する機会を設け、子ども達と関わり合うことで、保護者（PTA）や地域住民との結びつきが一層深まり、元気な地域コミュニティづくりに貢献できるのではないかと考えた。

3. 学校運営協議会の設置方針の決定後から設置までの課題とその対応状況

○ 「保護者・地域住民と良好な関係にあるわが地区の学校が、なぜ、今コミュニティ・スクールにならなければならないのか」という教職員・保護者・地域住民の疑問への対応

⇒① 教職員・保護者・地域住民合同の学校運営協議会制度についての学習会を開催した。

② 上記①の学習会を受け、本校が学校運営協議会制度を導入し、どんな学校経営を目指すかについて、職員会議・PTA三役会・学校評議員会等会議で説明した。

③ コミュニティ・スクール情報として「学校だより」を活用し、学校運営協議会制度の学習会の様子や本校の学校運営協議会制度導入についての説明会の様子・話題を提供し、保護者・地域住民に制度についての理解を促す広報活動を行った。

④ 町教育委員会でも、町の教育行政の基本方針として、「地域に信頼され・地域に開かれた学校を実現するために『コミュニティ・スクール』を導入する」ということを、町民との会合の場や議会だより、町の広報などを通し説明し、町民の理解を促す活動を行った。

※ 保護者・地域住民と良好な関係にあるわが地区の学校のよさを、今後も継続し一層地域と共にある学校にしていくためには、地域が参画する仕組みとしての「体制を確立」していくことが大切と訴え理解を求めた。

※ より多くの保護者や地域住民の思いが反映される仕組みが必要と訴えた。

- 「本校のコミュニティ・スクールは、具体的にどんな学校を目指しているのか」という経営ビジョンの提示（別紙＜参考資料＞参照）
 - ⇒① 誰にでも理解できるコミュニティ・スクールのイメージを作成した。
 - ② 学校・保護者・地域の役割や関わりを明確にし、何をどうすればよいかを提示した。また、そのために、「学校支援地域本部事業」の導入を決めた。
 - ③ 学校内の組織体制も変え、地域連携しやすい仕組みづくりに取り組んだ。
 - ※ 本校の子ども達に「笑顔とやる気」をいっぱいにさせたい、そういう子どもを育てるために保護者や地域が学校と一緒に考えて取り組んだりしてもらえ学校にしたい、という願いを伝えた。
 - ※ 将来の学校運営の姿をできるだけ具体的にイメージし、共有することに努めた。
- 学校運営協議会メンバーの人選

本校が目指すコミュニティ・スクールの実現のためには、地域のどのような方々を学校運営協議会メンバーにし協力を得ればよいか、具体的な人選が課題

 - ⇒① すでに学校運営協議会をもつ先進校から、どういう方が委員になっているとよいかのアドバイスをもらったり、町教育委員会から人材紹介してもらったりし、本校に必要とする人材を選考するための参考とした。
 - ② 学校や地域に詳しい既存の学校評議員会やPTA代表から、候補者を具体的にあげてもらい、検討を加え推薦してもらった。
 - ③ 学校運営協議会メンバーとして推薦を受けた方々に、個別に学校運営協議会の設置目的や意義を説明し、委員として協力してもらえようお願いした。
 - ※ 本校の子ども達の教育を多面的に見るために、地域教育振興に関わる人・民生委員・スポーツ少年団指導者・地域コーディネーター・PTA役員・一般住民・母親代表と立場の違う方々をお願いすることとした。

4. 学校運営協議会が学校や教育委員会に対してこれまでに提案してきた主な意見等

【学校運営の基本的な方針に対するもの】

- 学校運営協議会が4月からのスタートとなり、現時点では2回のみ学校運営協議会開催である。そのため、1回目は、今年度の経営方針についての説明、2回目については、授業参観を通して子どもの様子を見ること、2か月間の教育活動の様子や学校地域支援本部事業の進捗状況を報告し、学校運営の状況を把握したところであり、特に、学校運営協議会としての具体的な意見は出されていない。

【学校運営に関する事項に対するもの】

- 校舎内外に子どもと地域住民とがふれあえる広場があれば、もっと地域の人が気軽に学校に足を運んでくれるのではないかと。

【学校の職員の採用その他の任用に関する事項に対するもの】

- 特に具体的な意見は出されていない。

5. 学校運営協議会が提案した意見を踏まえた、学校や教育委員会の具体的な取組

【学校運営に関すること】

- 校舎内には、地域の方やボランティアが気軽に集える「ひまわりホール」を開設。校庭には、ふれあい広場としての「東屋」設置を、学校として教育委員会に対し要望している。

【教育活動に関すること】

- 特に具体的な取り組みはしていない。

【教職員の任用に関すること】

- 特に具体的な取り組みはしていない。

6. 学校運営協議会の設置後に感じられる変化（成果）

【学校（教職員）側】

- 学校経営の方針を保護者や地域住民に具体的に（「まなびフェスト」として）示すことにより、教育活動において達成目標を意識した取り組みが出来るようになってきている。（PDCAサイクルが機能しはじめてきている。）
- 学校運営協議会の定期的な開催は、教育活動の進捗状況のチェック機能になり、教育活動の活性化に繋がるのではないかと感じている。
- 登下校指導や環境整備等で地域の方々の多くの協力が得られ、これまで以上に安全・安心な環境になり、安心して子ども達の指導に当たっている。

【教育委員会側】

- 本町では、積極的にコミュニティ・スクールの推進をしており、現在6校の小中学校がその取り組みを始めている。そこで、教育委員会が主催して、毎月1回程度のコミュニティ・スクール推進委員会を開催し、各校の取り組みの進捗状況の報告や課題についての協議をしたり研修会を主催したりするなど、各校の活動支援を行っている。
- 町民に対しても、コミュニティ・スクールの周知のための広報活動や学習会（コミュニティ・フォーラムの開催）の企画など、コミュニティ・スクールの実践を通して、町民の学校教育への積極的参加や地域の活性化を目指した取り組みを進めている。

【園児・児童・生徒側】

- 学校と家庭・地域が育てたい子どもの姿を「まなびフェスト」を通して共有し、その目標の達成に向けてそれぞれが役割を果たそうとする取り組みができてきており、学校と家庭が子ども達へ同じ方向で働きかけができるので、子どもは生活面でも学習面でも落ち着いて取り組むことができる。

- 総合的な学習の時間の地域学習のボランティアとして指導を受けたり、毎週1回の草取りボランティアの方々と活動を共にしたり、毎日の登下校の安全指導でスクールガードの皆さんに見守っていただいたり多くの地域の方と触れ合い声をかけていただくことが増えた。地域の方が学校に出入りする機会が多くなり、学習の様子を見もらう機会も増え、ほめていただくことが多くなり学校での学習に意欲的に取り組むようになってきている。また、地域の方々とつながりができてきたことで、一層地域でのあいさつがよくなってきている。

【保護者側】

- 「まなびフェスト」に示した学校の取り組みを理解し、家庭でも「家庭でやるべきこと」を意識して取り組む家庭が増えてきている。
- 地域の方々のボランティア活動が活発化してきていることに触発されて、保護者もボランティア活動に加わる人が増えてきた。
- 学校・家庭・地域との協働を目指す視点から、学校運営協議会の意見をもとにし積極的にPTAが活動するようになった。
- スポーツ少年団の活動の盛んな本地域では、毎日練習のあるチームがあり、子ども達は放課後の時間が忙しい状態である。そのため、家庭学習や家での生活リズムの指導の難しさがあるが、スポーツ少年団の指導者や保護者が、学校の取り組みを理解し同じ方向に立って子どもの指導を行っている。

【地域側】

- 学校支援地域本部事業やコミュニティ・スクールの広報活動を通し、地域ボランティアの募集や活動を知り、学校に関心を示す人が増えてきている。
- 地域の高齢者の方々が、週1回の草取りボランティアを楽しみに学校へ来るようになった。
- 「こんなことをしてあげたい」「こんなこともできる」と提案してくださる方が出てきており、さまざまな応援をしてもらえるようになってきた。

7. 学校運営協議会の設置後に抱えている課題

- 学校と保護者、地域のボランティアの各組織が一緒になって、共通課題の解決のために必要な取り組みを協議し協働するための運営工夫
- より多くの地域住民の声を集約する仕組みづくり
- 学校支援地域本部事業を活用し、地域の組織として「学校の応援団的組織」を地域に定着させること
- 学校経営の改善を図る上で、学校運営協議会による学校評価をどのように行うか。

8. 上記7の課題の解決に向けた今後の取組予定

- 教職員・学校運営協議会委員を対象に、学校運営協議会制度や学校支援地域本部事業のあり方、地域住民の声を集約する仕組みについての学習会・フォーラムやコミュニティ・スクール先進校視察等の研修を行い、本校にとっての学校運営協議会の在り方を工夫改善していく。
- ボランティア活動を進めながら、ボランティアの裾野の拡大を図るとともに、各ボランティアの中核的人材を発掘し組織づくりを推進する。地域教育振興会や教育振興運動との関わりの中で地域の組織として「学校の応援団的組織」の位置付けについて検討をしていく。
- 学校関係者評価の評価者として学校運営協議会を位置付け、計画的な学校評価を行い、経営改善を図る。(学校運営協議会の協議内容に、定期的に学校自己評価結果と改善策の提案を入れ意見をもらう。)

II 学校運営協議会の実際の運営状況等

1. 学校運営協議会の運営状況

(平成21年度実績・計画：年4回開催予定)

回	年月日	議 題 等
	H21. 4. 21	平成21年度学校運営協議会委員委嘱状交付式 町教委主催 第1回門小学校学校運営協議会 ・委員長、副委員長選出 ・平成21年度門小学校学校経営計画について ・学校支援地域本部事業について
	H21. 6. 19	第2回門小学校学校運営協議会 ・授業参観 ・4月～6月期における教育活動の報告 ・まなびフェスの進捗状況(自己評価結果) ・学校支援地域本部事業の進捗状況 ・意見交換
	H21. 9. 2 (予定)	第3回門小学校学校運営協議会 ・授業参観 ・7月以降の教育活動について報告 ・1学期の評価結果と2学期の重点取り組みについて ・学校支援地域本部事業の進捗状況 ・意見交換
	H22. 2. □ (予定)	第4回門小学校学校運営協議会 ・2学期の評価結果及び学校運営の自己評価の結果 ・学校関係者評価をしてもらう ・次年度に向けた改善策等の提案・審議、方針の決定 ・学校支援地域本部事業の実践評価と改善策について
(補記) ・各学校行事へ案内し、教育活動の様子を参観してもらう。 主な行事 入学式・卒業式・運動会学習発表会・ロードレース大会・門っ子そば会等		

2. 学校運営協議会に関する基本情報等

- 学校運営協議会を置く学校としての指定期間（年数）※規則上
- 学校運営協議会の委員の任期（年数）※規則上
- 学校運営協議会の委員の改選方法の工夫

3 年
2 年

・学校支援地域本部事業で立ち上げたボランティア組織（門っ子サポーター）の代表が委員として加わることを検討している。

- 学校運営協議会の議事内容の公開状況

・現在のところ、会議は2回しか行っていないが、「学校だより」を活用し議事内容と議決されたこと（例：学校運営協議会会長・副会長の選任や学校経営方針が承認されたこと）や委員から出された教育活動についての感想、学校運営協議会の持ち方についての意見など、学校運営協議会がどのように行われているかがわかるように報告をしている。

3. 学校の教育活動に協力する仕組み（PTA、学校支援地域本部事業等）との連携状況

- 学校支援地域本部事業の地域教育協議会と学校運営協議会を重ねることで、学校支援地域本部事業を活用し、コミュニティ・スクールとして学校を地域に開き、保護者や地域住民等の協力を得ながら三者が連携して、よい学校づくりを目指す取り組みにしようとしている。その際、本県独自の取り組みである「いわて型コミュニティ・スクール構想」(※)と「教育振興運動」の考え方を融合させながら推進するよう努めている。

そして、学校運営協議会で協議し確認したことについて、学校支援地域本部事業の活動として進めるようにしている。

※ 「いわて型コミュニティ・スクール」とは、学校運営協議会を設置せずに、学校が主体となり、学校を地域に開き、保護者や地域住民等の協力を得ながら三者が連携して、よい学校づくりを目指す取り組みである。そのために、「まなびフェスト」という教育版マニフェストを作成し、目標達成型の学校経営を進めるという取り組みである。これは、本県が学校経営改革を目指し、全県的に進めているものである。

- PTA活動について

学校運営協議会委員としてPTA会長やPTA役員が入っていることにより、学校運営協議会の協議内容を受けて、PTA活動の工夫や改善を試みるなど、よりよい方向を目指した取り組みをしている。

4. 学校運営に対する意見を聞く他の仕組み（学校関係者評価、外部アンケート等）との連携状況

- 学校経営改善のために、学校評価の計画的取り組みを行っている。
 - ① 学校自己評価の一つとして、保護者や子どものアンケートを行っている。
 - ・ 「まなびフェスト」に沿ったアンケートを保護者・子ども・教師の三者に対して行い目標への達成状況の参考としている。
 - ・ 「まなびフェスト」の項目は、教育目標の具現化のために、各担当教員が今年度の取り組み重点として掲げたものであり、その取り組みが保護者・子ども・教師のアンケート結果からどう評価できるのか、どのような改善が必要なのかを考える資料としている。
 - ② 外部からの意見を聞く機会として
 - ・ 年2回の学校保健委員会により、校医・薬剤師・保健師・栄養士・保護者等から健康に関わる学校の取り組みについて意見をもらう。
 - ・ 民生児童委員と語る会や地区懇談会等で、広く地域の方々から学校への意見を聞く機会をもっている。
 - ③ 学校関係者評価として、学校運営協議会を位置づけ、学校の自己評価結果や改善策について提案し、意見をもらえるようにしている。

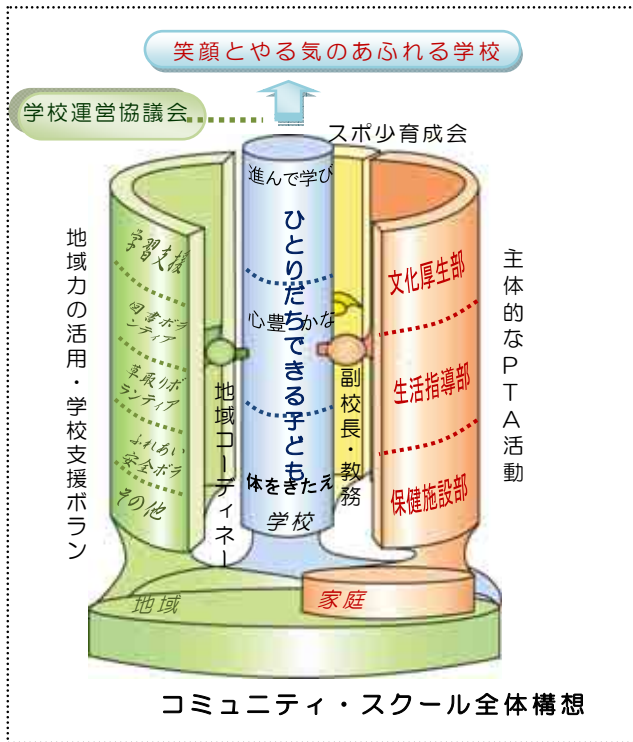
5. その他

（別添資料）

- 門小学校コミュニティ・スクールのイメージ

<参考資料> 門小学校コミュニティ・スクールのイメージ

- ・ 学校を核として、教育目標の具現化を目指すということを目標に、PTA組織・地域支援本部事業で立ち上げるボランティア組織・スポーツ少年団育成会が手を携えて、それぞれの活動を自律的に行いながらも目標を共有して協働できる組織体制を作っていくことを目指す。
- ・ 目指す子どもの姿は、「笑顔とやる気があふれている姿」ととらえる。

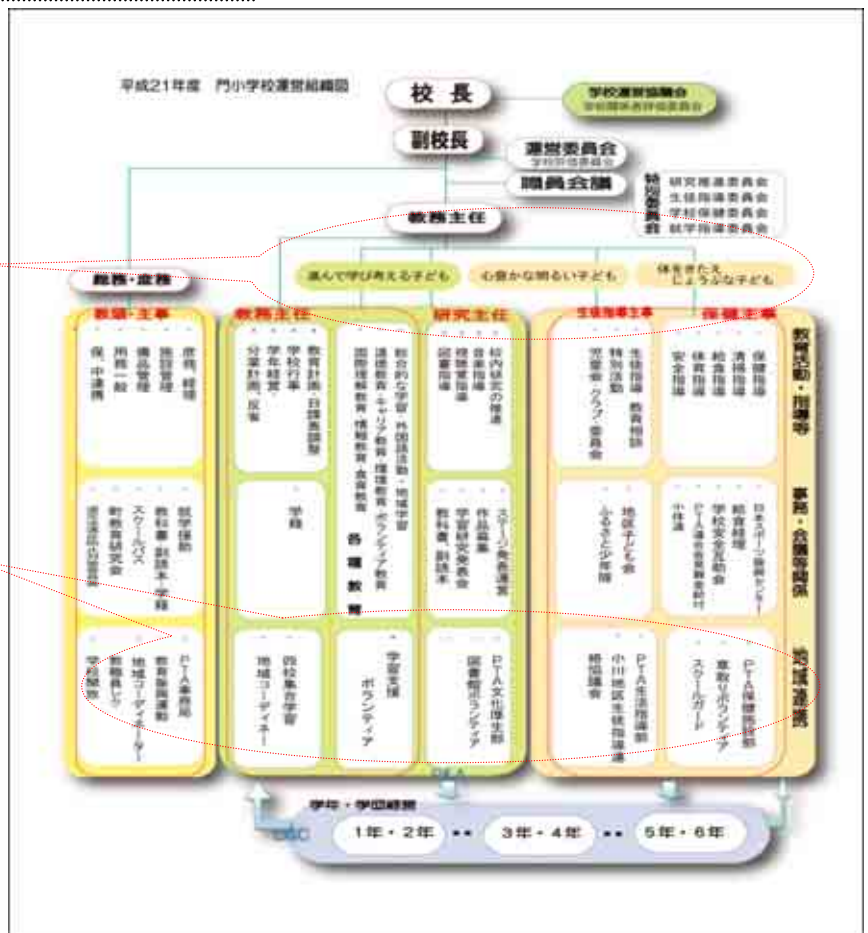


- ・ コミュニティ・スクールとして期待することは、
 - ① 保護者・地域・教職員が一体となった学校づくり
 - ② より公正で透明な学校運営の実現
 - ③ 教育活動に地域の協力が得やすい環境づくり
 と、押さえる。
- ・ 学校運営協議会の位置づけは、図のようにとらえ、各組織の代表が関わり多面的に子どもの姿をとらえ、学校経営に意見・提案できるようにする。

上の図の構想を実現するために

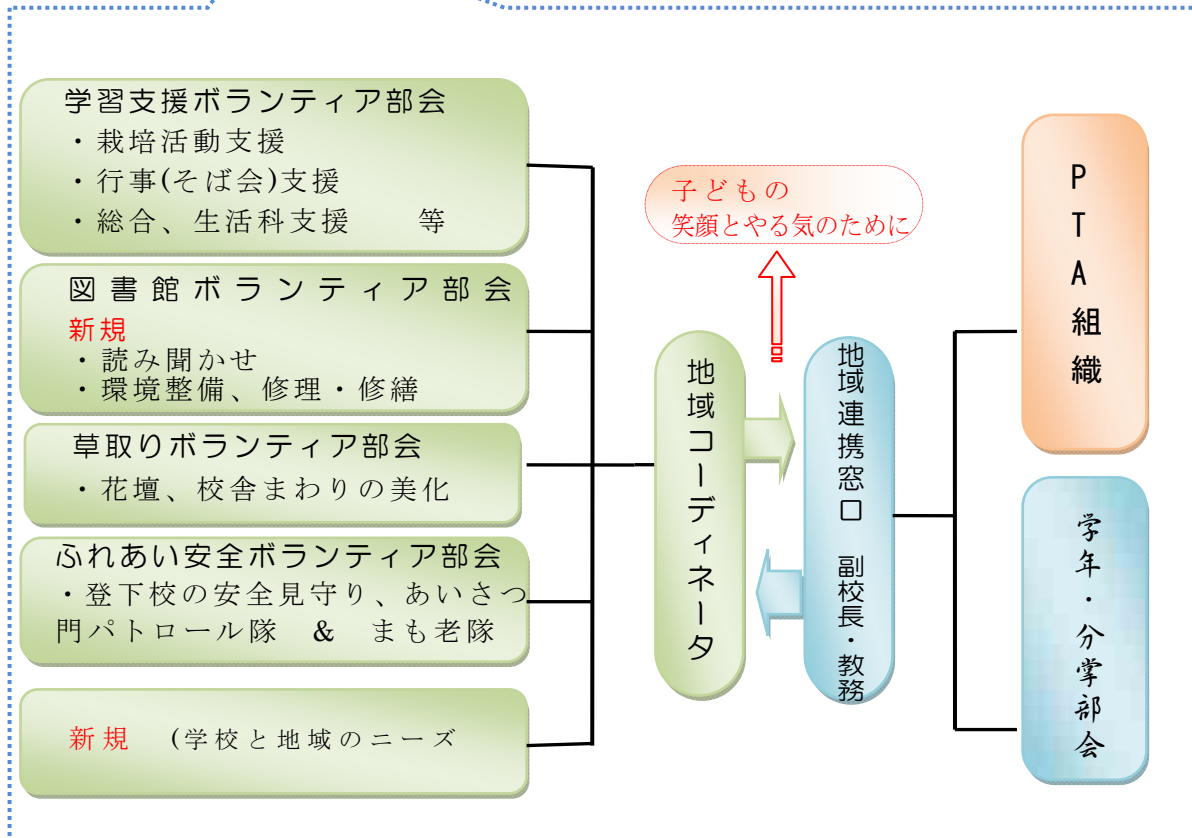
1. 校内組織を右図のように

- ・ 各分掌が、教育目標の具現化を意識し、具体目標を設定しながら教育活動の計画・実践・評価の組織マネジメントが出来るようにする。
- ・ 各分掌とPTAや地域ボランティアとの連携を取りながら活動できるようにその役割分担を明確にし、責任をもった関わりが出来るようにする。



2. 地域ボランティア組織を下図のように（学校支援地域本部事業）

- ・ これまでの地域の方々にお手伝いいただいているものをグループ化するとともにこれから立ち上げていきたいボランティア組織を加えていく。
- ・ 地域コーディネーターを置き地域コーディネーターと学校の連携窓口を一本化することで、活動や打ち合わせ等のシステム化を行い、スムーズに連携が図れるような仕組みを作る。



3. 学校運営協議会の役割を

- ・ 学校経営方針の承認であり、協働の目的を共有する場としたい。
- ・ 学校の教育活動の進捗状況を確認し、活動の評価を定期的に行っていく。
- ・ 学校の評価を踏まえ、教育活動の改善に意見を述べる。
- ・ 学校に対する地域の声を広く集め情報提供できる組織としたい。


笑顔とやる気のあふれる学校をめざして

～コミュニティ・スクールの取り組みを通して～

岩手県岩泉町立門小学校

地域紹介

小本川沿いに発達
塩の道として要所



学校紹介



学校運営協議会導入の経緯

- 岩泉町の教育の現状
 - ・教員の地元出身者 岩泉町教員の全体の8%のみ
 - ・地域が求める人材育成のために、学校経営に地域住民の参画が必要
- 平成17・18年度 文部科学省コミュニティ・スクール推進調査研究委託事業を岩泉小と岩泉中で実施、研究
- 平成19年度 岩泉町指定
 - 岩泉小と岩泉中をコミュニティ・スクール推進校に

↓

地域とともに創る学校をめざす

- 平成20年度 岩泉町指定
 - 小本小と小本中をコミュニティ・スクール推進校に
- 平成21年度岩泉町指定
 - 門小・小川中をコミュニティ・スクール推進校に

教育振興運動(教振=きょうしん)

昭和40年から続いている岩手の教育運動です。

みんなで教振!
いっしょに教育振興運動!

◇子ども、親、教師(学校)、地域、行政の5者が、それぞれの役割を果たしながら、相互に連携して進める運動です。

◇教育振興運動は、学校、家庭、住民等が絡ぐるみで、地域の教育課題の解決に自主的に取り組む岩手県独自の教育運動です。

◇地域が抱える子どもたちの教育課題を地域単位で人々が話し合い、運動の計画を立て、地域の特色を生かして自主的に解決しようとする実践的運動です。

生きる力

- 知=「確かな学力」 → ① 学力向上
- 徳=豊かな人間性 → ② 健全育成
- 体=健康と体力 → ③ 健康安全

いわて型コミュニティ・スクール構想

◇学校長のリーダー・シップ

- 学校の経営改革
 - 検証可能な目標「まなびフェスト」を設定
 - 目標達成型の学校経営改革の推進
- 家庭・地域との協働
 - 地域性を踏まえながら、家庭や地域と協働を図ること
 - 開放的で個性的な学校づくり

地域の願い・保護者の願い・学校の願い

子どもの笑顔とやる気



門小イメージキャラクター やるき君 & えがおちゃん

保護者の願い



心豊かで明るい子ども・だれとでも仲良く



親も子も 地域のつながりを大切にしたい

地域の願い(地域振興計画から)

- ・創造性や独自性が発揮できる住民を主体とした自治会の組織確立
- ・地域のことは、地域自らが考え、自らの責任をもって行動することが大切
- ・それぞれの地域を知っている住民が、それぞれの将来について話し合い計画を立てる

地域の将来像

住みよい生活環境の整備に努め、自然・歴史・文化を生かし、子ども達が夢をもって生涯にわたって安心して暮らせる地域をめざす。

- 1 地域の豊かな自然の保護と活用
- 2 地域の文化・風習・伝統を通じた世代間交流
- 3 自分たちの地域は自らの発想でつくる
- 4 いろんな行事やイベント主役になろう

- ・文化施設・教育施設がすくない
- ・地域文化を学ぶ機会が少ない
- ・子ども達とのふれあいの場が少ない
- ・地域コミュニティが不足である
- ・地域の風習を理解できる若者がいない
- ・豊かな自然が生かされていない

学校は

豊かな体験学習をさせるための
地域の素材や人材の活用



環境整備等への支援により
子どもと向き合う時間の確保



より多くの保護者や地域の人が学校に関わることで
教育活動への理解と応援

コミュニティ・スクールの導入の理由

- 保護者や地域住民の教育への思いが反映され、地域が必要とする子どもを育てる環境をつくるために、保護者や地域住民が学校経営に参画する体制を築く
- 学校を核として、地域の人材を多く活用する機会を設け、子ども達とかわり合うことで、保護者や地域住民の結びつきが一層深まり、元気な地域コミュニティづくりに貢献する



○ なぜ、本校がコミュニティ・スクールにならなければならないのか？

コミュニティ・スクール立ち上げまでの経緯

Step 1 構想づくり

(自問自答の時期)

・「コミュニティ・スクールって何？」の問いかけ

●「子どもの幸せ」のために、
家庭・地域が学校経営に参画
できる学校

・「コミュニティ・スクールでどうしたい」

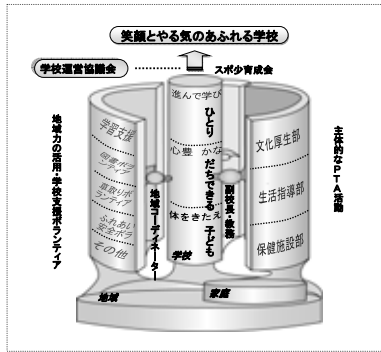
●学校・家庭・地域が、ベクトルを
同じにして教育に携わる
関係づくり

・多くの人に「コミュニティ・スクールをどのように伝えるか」

●コミュニティ・スクールの全
体構想イメージをつくる
●機会をとらえて、説明する
機会を増やす・校報で知らせる

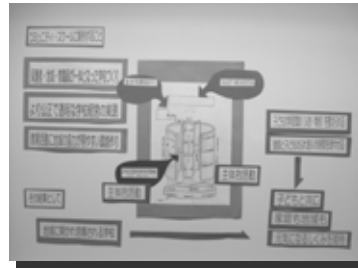
自律的關係を保ちながら協働できるしよみの学校
(共有するための手段)

コミュニティ・スクール全体構想図



Step 2 「コミュニティ・スクールのイメージ」の共有

(説明期)



互いの役割や関わりのイメージを視覚化し、目的の共有化を図る

- 地域との連携・協働のしくみづくりにどう関わるか
- 学校支援地域本部事業の導入検討



学校教育目標の実現

学校運営協議会

教育振興運動

学校支援地域本部事業

いわて型CS

主に家庭・地域からのアプローチ

家庭・地域の連携・協働

主に学校からのアプローチ

Step 3 組織づくり

- 学校運営協議会委員の候補リストづくり
教育委員会の助言・学校評議員からの意見・PTA三役からの意見
- 候補者への説明と協力依頼
- 教育委員会へ推薦・任命
- 学校運営協議会委員の決定・協議会の設置

門小学校学校運営協議会 委員



- 会長 地域コーディネーター
- 副会長 PTA会長
- 委員 地域振興会会長
- 委員 防犯連絡協議会副会長
- 委員 地区民生児童委員代表
- 委員 更生保護女性の会
- 委員 交通安全指導員
- 委員 スポーツ少年育成会保護者会
- 委員 母親代表
- 委員 校長

学校経営に対し、さまざまな立場の人から、広く意見を聞くことができるように人選

Step 3 組織づくり

- 学校運営協議会委員の候補リストづくり
教育委員会の助言・学校評議員からの意見・PTA三役からの意見
- 候補者への説明と協力依頼
- 教育委員会へ推薦・任命
- 学校運営協議会委員の決定・協議会の設置

※ 学校内外の組織改革・意識改革ではないか

STEP 4 実践試行期 (まず、やってみよう期)

その1 目標達成型学校経営へ 参画意識を育てる校内組織づくり

各分掌・各主任がめざすべき教育目標の位置づけ

外部組織との連携・協働を図る窓口

学校教育目標の具現化の取り組みを分掌ごとに提案

いわて型コミュニティ・スクール

まなびフェスト：達成したい目標や取り組みを具体的に保護者や地域に示す

その2 学校支援地域本部事業を活動の中心にして 地域の組織づくりをめざす (地域振興協議会との連携)

子どもの笑顔とやる気のために

地域コーディネーター

PTA組織

学年・分掌委員会

現在(校内)にある

今後の状況(地域内)にある

学校ボランティア組織づくり (門っ子サポーター)

その3 PTAの組織運営 ちよつと進める意識改革(自分たちで)

文化厚生部

生活指導部

保健施設部

PTA総会

PTA三役会

学校運営協議会の役割の明確化

学校経営方針の承認し、それぞれの立場から子育ての目的を共有し協働することを確認する場

その4 学校運営協議会としての具体的な活動

活動計画表

月	行事・会議	内 容
4月	第1回 学校運営協議会	・役員懇合わせ会 学校運営の方針
	入学式 参列	・学校の様子、新入生の様子
5月	運動会 参観	・新年度の子どもの様子
6月	授業参観 第2回学校運営協議会	・学校の状況報告 地域支援の活動状況
7月	1学期 学校評価(アンケート)	
9月	授業参観 第3回学校運営協議会	・1学期の評価結果と2学期の重点 ・学校の状況報告 地域支援の活動状況
10月	学習発表会	・子ども達の発表の様子
	ロードレース大会	・子ども達の発表の様子
11月	門っ子そば会	・子ども達の発表の様子
12月	2学期 学校評価(アンケート)	
2月	授業参観 第4回学校運営協議会	・2学期の評価結果 次年度に向けて ・学習状況について 地域支援の活動状況 ・コミュニティ・ケールとしての成果
3月	卒業式 参列	・学校の様子、卒業生の様子

これから進むべき方向

その1 現在のよさ



学校は

・校内組織の見直しと「まなびフェスト」の取り組みにより組織マネジメント(PDCA)が機能し始めている。

・学校運営協議会の定期的開催が、教育活動の進捗状況のチェックになり教育活動の活性化につながるのではないかと感じている。

・児童の登下校や環境整備等で地域の方々の協力を得られ、これまで以上に安心・安全な環境になり安心して子どもの指導に当たれる。

子どもは

・学校と家庭が子ども達へ同じ方向で働きかけができるので、学習面でも生活面でも落ち着いて取り組むことができている。

・地域の方々とのつながりができ、一層地域でのあいさつがよくなってきている。



・「まなびフェスト」の取り組みによって、家庭でやるべきことを意識して取り組む家庭が増えてきている。

・地域の方々のボランティア活動に触発され、忙しい中にも活動に加わる方ができている。

保護者は

・スポーツ少年団でも、学校の取り組みを理解し家庭学習について同じ方向で指導している。

地域は

・地域ボランティアの募集や活動を知り、学校への関心を示す人が増えている。

・週1回の草取りボランティアを楽しみに学校へ来る高齢の方が増えている。

・「こんなことができるよ」と提案してくださる方が出ている。



その2 工夫・改善していくべきこと

・各分掌とPTAや地域ボランティア組織の連携推進のための打ち合わせ等の組織の充実

・地域のニーズを活かした総合的な学習の時間の再構成

・目標達成型の学校経営に向けた具体目標や評価等の吟味

笑顔とやる気のあふれる門小学校

地域の自然・歴史・文化を生かし、子ども達が夢をもってこの地域で安心して暮らせるように



おわり

ありがとうございました。